

信大マンドリンクラブ 年頭所信 「人生100歳時代」が来そうだ

平均寿命が延びていることは周知のことでしょう。食生活の改善、医療の発展、健康意識の向上などがその理由となっております。現在平均年齢が85歳位でしょうが、今後更に延びて90歳、100歳までになるかも知れません。しかしその全員が健康で生活しているわけではありません。寝たきり老人も多くなりました。

我々の望みは健康で他人に迷惑ならず生きていくことです。その為には、健康意識をしっかりと持って生きていくことではないでしょうか？。他人からの適切な助言は大切ですが、他人任せではいけません。自分から健康への知識を高めてください。

昨年から始めたカンツォーネを歌う会の仲間は最高齢が87歳の女性です。70歳で喘息を患い、その治療に始めた方ですが、朗々と歌う声は少女のように可憐で、可愛い顔になられます。歩くに杖が必要ですが、毎月一人で新幹線に乗って熱海から六本木まで通ってきています。80歳代の女性が何人もおられます。また囲碁の仲間は男性ですが88歳を先頭に私(75歳)以上の仲間が5名以上おられ、元気でボケずに囲碁を楽しんでいます。囲碁をやっていて良かったと言っております。またゴルフ仲間では93歳の先輩が自分で運転してクラブまで来られます。さすが飛距離は落ちて、スコアも130位たたきますが、肉を良く食べるので感心しております。

彼ら先輩方の共通項は、健康には意外に無関心で趣味に没頭しているということです。「健康病」に囚われていないことです。信大同窓会の皆さんはマンドリンやギターなどの楽器演奏に没頭して、元気で100歳時代の到来に備えて頂きたいと思っております。

年頭に当たり皆様方のご健勝をお祈りいたします。

会長 羽田克己 (S42年文理学部卒)

<本部便り> I. 信濃鼓動 ”役員会便り⑤”

第3回 総会決まる！！

2018年 6月16日(土) 、松本教育文化センター

久し振りに ”役員会便り” をお送りします。最近羽田会長体制4年目となり同窓会の活性化が進み、各事業部の報告と支部活動で大筋の活動内容が分るようになりました。敢えて役員会便りをお伝えしなくても ”見える同窓会” が出来つつ有り、皆さんに安心して頂ける状況になりました。今回は2022年の60周年記念祭に向けての準備状況と、それを支える若がえりの本部・支部人事対応が話題となります。尚、この2点は今年開催の第3回総会で大筋の方向を決めたいと思います。

*60周年記念祭(2022年)は 金井事業部長が中心となり、準備委員会をスタートさせました。今後、演奏、事務方共にその進捗状況を随時お知らせしていきますので楽しみにしてください。

*新人事については、2022年記念祭を目指し、順次役員交代をスムーズに行い、何時までも皆さんに愛される同窓会を存続させていきたいと思っております。若い会員の方々の御協力も得ながら進めていきたいと、ご協力をお願いします。

第7回本部役員会を、総会前の3月、名古屋で開催しますので、此処の情報は次回号でお伝えします。

副会長 斉藤 学 (S45年工学部卒)

＜本部便り＞ II. 事業委員会からのお知らせ

皆さん、明けましておめでとうございます。今年も同窓会活動にご協力頂きます様、宜しくお願い致します。

今年は6月16日に開催される第3回定期総会におきまして、前回同様のマンドリンコンサートを開催致します。ステージ構成も前回と同様に①甲信越支部、②東日本支部、③西日本支部、④現役、⑤全体となりますが、今回は全体演奏の曲目を若干増やし5曲と致します。曲目は「信濃の国」「テキエロデヒステ」「宵待草」「山峡」「学生歌」です。

この全体演奏は比較的簡単な曲を選んであり、その日限りのぶっつけ本番ですので、日頃各支部の練習に参加していない方でも、楽器を持って来て頂き、演奏に参加して頂きたいと思います。尚、楽譜が必要な方は金井までご連絡下さい。

また、各支部のステージにつきましても、前回以上の参加者を募集していますので、新たに参加したいと言う方は各支部の事業委員に連絡して頂き、演奏曲目や練習日程をお聞き下さい。

各支部の事業委員は下記の通りです。

- ・東日本支部：福永真敏 E-mail spmasafuku@k5.dion.ne.jp TEL 029-873-9663
- ・西日本支部：大原秀樹 E-mail ooharahideki.h@hb.tp1.jp TEL 079-253-4798
- ・甲信越支部：市ノ瀬茂 E-mail s-ichinose@naganotomato.co.jp
TEL 0263-66-4017
- ・事業委員長：金井正広 E-mail kanaifam@janis.or.jp TEL 090-7213-5315
事業委員長 金井 正広 (S50年工学部卒)

＜支部便り＞ I. 甲信越支部

甲信越支部より新年のご挨拶を申し上げます

明けまして おめでとうございます

私事ですが、昨年は不覚にも体調を崩してしまい、不完全燃焼で残念な年になってしまいましたが、徐々に体調も戻ってきていますので、頑張っ今年が良い年にしていきたいと思っています。

昨年の甲信越支部の活動としては、3月の「うつくしの湯音楽祭」に始まり、6月の「第3回甲信越支部総会」、そして11月には「繊維学部同窓会に出前コンサート」を実施し、これらのイベントに備えてほぼ月に1回のペースで練習会を行ってきました。なお、繊維学部同窓会の出前コンサートについては甲信越支部幹事長・金井正広さんの報告書が別途ありますのでこちらをご覧ください。

本年は6月に、第3回SUMC本部同窓会の定期総会が実施される年でもありますしまた、甲信越支部独自の活動としても9月15日に上田情報ライブラリーでのコンサートに参加することが確定しています。また未確定ではありますが3月4日に「うつくしの湯音楽祭」、城所祐吉さんの「あさひホーム慰問演奏」等も予定されています。上記のイベントに合わせて、甲信越支部としての練習日程や会場、取り組む曲も金井幹事長中心にメールで支部の皆さんにお知らせしながら、今年も活発に活動していく予定です。大勢の方の参加をお願いしつつ、本年も宜しくお願い申し上げます。

甲信越支部長 日野博明 (S47年繊維学部卒)

I-② 甲信越支部 繊維学部同窓会総会 出前コンサート

甲信越支部としての昨年最後のイベントは、11月25日に開催された繊維学部同窓会“千曲会”の総会での出前コンサートでした。場所は繊維学部の「マルベリーホール」(学生食堂)で、聴衆は約70名、甲信越支部からは15名が参加し、7曲演奏しました。信大の同窓会でしたので、「学生歌」から始め、最後は「春寂寥」の全員合唱で締めました。演奏途中では繊維学部出身の演奏者を紹介したり、「千曲川」では千曲会の尺八の名手にも演奏に加わって頂き、好評を博しました。



繊維学部「マルベリーホール」にて

〔演奏曲目〕

1. 学生歌
2. 童謡“春夏秋冬”
3. 涙のトッカータ
4. 千曲川
5. 秋(コスモス)桜
6. 津軽海峡冬景色
7. 春寂寥(アンコール)

また、コンサート終了後は「マルベリーホール」の隣の建物にあるマンドリンクラブの部室を見学に行きました。5年前までは昔からあった木造二階建ての古い建物にありましたが、今は新しい建物になっています。部室は昔よりは狭くなりましたが、隙間風もなく快適そうです。中にはコタツもあり、アットホームな雰囲気伝わって来ました。その後、近くのファミレスで反省会をして、解散となりました。



部室の建物



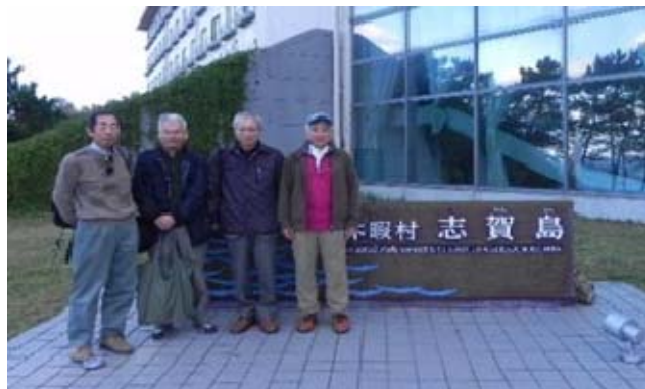
マンドリン クラブ部室

甲信越支部幹事長 金井正広 (S50年工学部卒)

あれから 49 年

私たち昭和 44 年農学部卒の 4 人。クラブとマーシャンに明け暮れた青春の日々、あれから 49 年。

「4 人の集い」と称して、3 年前は松本・伊那周辺、昨年は大河ドラマ井伊直虎ゆかりの静岡県・龍潭寺へ。今年(2017 年)は 11 月 29 日～12 月 1 日と 2 泊 3 日、九州博多に住む上吉君の案内で世界遺産に登録された神宿る宗像へ。沖の島遺跡群の一つ宗像大社辺津宮では、神様に手を合わせて”たくさん”お願いしてきました。



左より品田君、上吉君、山内君、鶴見
ホテル 休暇村 志賀島より

その後、同じ敷地内にある神宝館(8 万点の国宝が収蔵)に行き 1500 年もの歳月を経ても当時の輝きを伝えている金製指輪などが所狭しと陳列されており、見るものが国宝と記されおり圧巻でした。

長野から九州博多へ行く機会がなく、クラブで出会うことがなければ、こうした旅もなかったと思っています。旅の 1 日目、博多在住の須原 進さん(昭 45 年文理卒)に久しぶりにお会いすることができ、3 つのギターサークルに所属し、年 22 回慰問演奏をしていると聞き驚きました。男 4 人互いに気心を知っていることもあり、気軽に楽しい旅をエンジョイしてきました。

皆さんから旅の感想として「本当に楽しく過ごさせて頂きました。皆さんが一年前とちっとも変わらなく若々しく元気であることが何より良かったです。」「皆さんの日頃の生活や活動状況などを伺いながら、自分ももっと頑張らなければと改めて自覚した次第です」「皆さんの元気な顔にも出会え良い数日になりました。健康に留意してひとつ若くなってまた会いましょう」が寄せられました。

鶴見 鍵二(S44 年農学部卒)

<支部便り> II. 東日本支部

東日本支部より 新年おめでとうございます

東日本では2月4日(日)、毎回お世話になっています羽田会長の豪邸(港区白金台)をお借りして“マンドリン合奏 初音合わせ or 聴きながら語らう集い”と題し、練習会と新年会を開催しました。

12時30分頃に関東エリアの一都六県から逐次集結し、6月16日に予定されている松本での本部定期総会とミニコンサートに向けてのマンドリン合奏初練習、そして、その後に本部関係(総会、60周年他)の連絡・意見交換会を持ちました。



マンドリン合奏練習風景①



マンドリン合奏練習風景②

今回は福永事業委員の采配のもとマリオネット曲集から選曲し、指揮者を置かずにアンサンブル形式でトライしましたが、予想以上に呼吸合わせが大変です。

一方、練習の間に羽田会長と斎藤筆頭副会長は3月の役員会(名古屋)や定期総会の事前打ち合わせ?に余念がない様子で、ハイブリッドな集会となりました。

夕刻からは会場を品川駅前の料亭?に移し、総勢13名で懇親会を行いました。今回は本部役員会の併催がないので少人数の寄合い風となり、粋な宴席となりました。5月13日(日)には6月総会に向けての練習会を行う予定です。



新年懇親会(品川駅前にて)



羽田会長と練習メンバー

また、メンバー所属各楽団の演奏会も2月18日(松下さんのアンサンブルマーレ<於:鎌倉芸術館>)を皮切りにスタートするので互いに足を運びたいと思います。本年も共に健康で活動しましょう。

東日本支部幹事長 三戸 純
(S47年繊維学部卒)

＜支部便り＞ Ⅲ. 西日本支部

新年おめでとうございます。

今年の西日本支部活動は、毎月第 1 土曜日の定期練習会の他、3 月 3 日に名古屋で開催される第 7 回本部役員会歓迎ミニコンサート、4 月 21 日に西日本支部幹事の伊藤雄二さんが勤務されていた（株）デンソー工機部同窓会への出前演奏会、6 月 16 日に第 3 回 SUMC 同窓会総会&ミニコンサート、7 月 7 日にカ石泉さん(S53 年卒旧姓山下)が勤務されている豊郷病院での慰問演奏(七夕コンサート)、9 月 17 日に名古屋市光城学区敬老会イベント出演などを予定しています。新曲を練習する余裕がなさそうなので、2018 年の課題曲は今年の曲を持ち越し、過去のレパートリーから、「宵待ち草」と「出船」を追加しました。今年の練習予定日は以下の通りです。

- 2 月 26 日(月) 刈谷市総合文化センター(名古屋市地区の自主練習)
- 3 月 3 日(土) 名古屋市北生涯学習センター(第 7 回本部役員会)
- 3 月 21 日(水) 刈谷市総合文化センター(名古屋市地区の自主練習)
- 4 月 7 日(土) 京都市呉竹ホール
- 4 月 21 日(土) 刈谷市デンソースクエア
- 5 月 12 日(土) 名古屋市北生涯学習センター(予定)
- 6 月 2 日(土) 神戸 or 京都(予定)
- 6 月 16 日(土) 松本教育文化センター(SUMC 同窓会第 3 回総会)
- 7 月 7 日(土) 彦根豊郷病院
- 8 月 4 日(土) 名古屋市北生涯学習センター(予定)
- 9 月 1 日(土) 神戸 or 京都(予定)
- 9 月 17 日(月) 名古屋市北区光城学区集会場(敬老会イベント参加予定)
- 10 月 6 日(土) 神戸 or 京都(予定)
- 11 月 3 日(土) 名古屋市北生涯学習センター(予定)

練習後は懇親会を行います。西日本地区にお住まいの皆さん、時間が取れましたら見学に来てください。問い合わせは、幹事の伊藤雄二まで(080-3282-2873)

(西日本支部長 伊東義敏)

Ⅲ-②. 日本初の国産マンドリン製作工場を訪ねて

笠木の山の風うけて花の木匂う城ヶ陵♪♪
いしすえ深く窓高く希望明き学び舎は♪♪
永遠に栄えん我等が恵高♪♪

島崎藤村作詞による我が母校岐阜県立恵那高等学校校歌です。この中で歌われている笠木山のふもとに日本初の国産マンドリン製作工場があることを昨年知り、工場見学に行きましたので紹介します。この工場は戦前までは鈴木バイオリン製造株式会社(名古屋市)の恵那工場としてバイオリン、チェロ、コントラバス、ギター、マンドリンを製作していましたが、1954 年(昭和 29 年)から恵那楽器株式会社として独立し、有名楽器メーカーに楽器を OEM 供給しながら、独自ブランド「サウンド・エナ」としてギター、マンドリンの製造・販売をおこなっています。



大量生産品と手工品の中間的な価格設定で、質の良いコストパフォーマンスに優れたギターマンドリンを製作し、地元の高校マンドリンクラブにとってなくてはならない工場になっています。

日本で最初にマンドリンを製作したのは、鈴木バイオリン製造（株）の創始者鈴木政吉です。政吉は 1859 年（安政 6 年）名古屋に生まれ、家業の三味線作りを手伝っていましたが、明治になって急速に進む西洋化の波にのまれ、家業が立ちいかなくなり、音楽教師を目指し、師範学校音楽教師の門をたたきました。同門の友人が持つバイオリンに魅せられた政吉は徹夜でそれを模写し、一週間で試作バイオリンを作り上げました。それが大変好評をよび、バイオリン製作を生業とするようになりました。1900 年（明治 33 年）パリ万博で政吉のバイオリンが銅賞を受賞。バイオリンの大量生産が始まった。その後 1902 年（明治 35 年）比留間賢八が欧州から持ち帰ったマンドリンを見本として、日本で最初のマンドリンを製作しました。



（ マンドリンの製造工程 ）

① 材料の乾燥

- ・炭をおこした窯の熱で乾燥させます。

② 材料の選別・

- ・各パーツを正確に切りそろえます。

③ 組立

- ・各パーツを組み立てます。（接着は“にかわ”を使用）
- ・熱を加えて板が折れないように曲げて型の中で 1 枚ずつ張り合わせます。
- ・張り合わせが終わったら乾燥させて背彫を行います。
- ・表面板を張り合わせます。
- ・マンドリンのネックを付けます。
- ・フレット板をつけます。

- ・肘あてをつけます。

④ 塗装

- ・塗装された表面を水ペーパーで滑らかにします。（この作業を 2、3 回繰り返します）

⑤ 仕上げ

- ・糸巻きを付け弦を張ります。

以上の工程が職人の丁寧な手作業で行われ、マンドリン 1 本につき 1 カ月半程かかります。



参考文献

- ・国産マンドリン第一号製作者 鈴木政吉翁の生い立ち：南谷博一
- ・マンドリンの製造工程：サウンド・エナ
（昭和 45 年工学部卒 伊東義敏）

